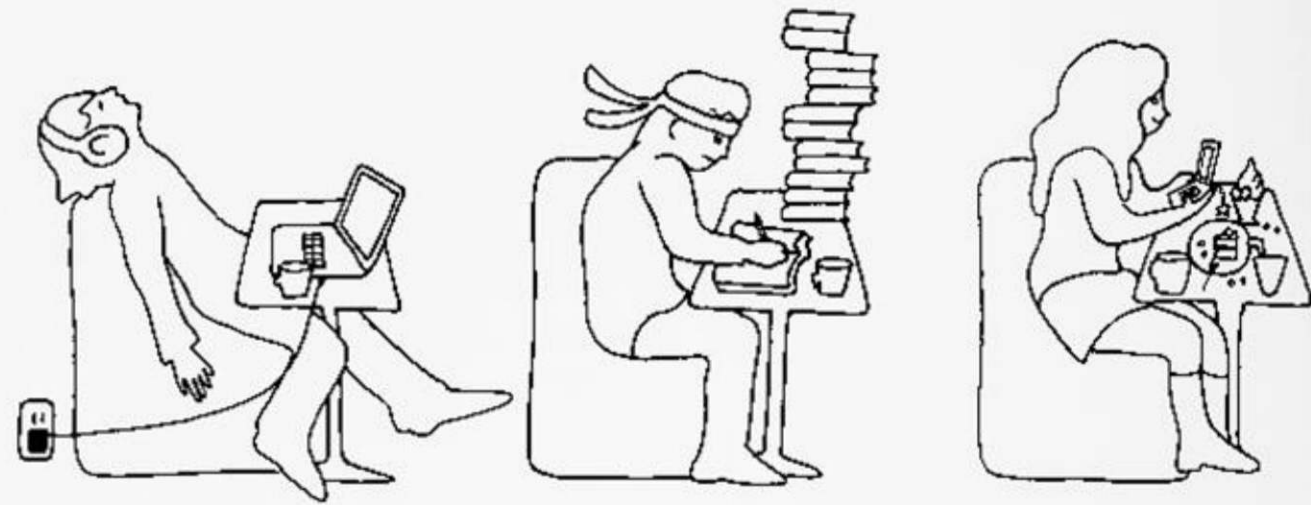


ファミレスにいる若者たち。
食べに来てるといふより、
住んでいる。



毎日の何気ない出来事の中に、
社会学の入り口があります。

たとえば私たちに身近なファミレス。いろんなお客さんがいる中で、若者たちの姿をよく見かけますね。友だちとおしゃべりをしている人もいれば、ひとりでゲームに熱中している人や受験勉強をしている人もいます。この現象から、彼らにとってファミレスは自分の部屋のようなものになっているのでは？ という風に考えることもできます。こんな日常の何気ない出来事や疑問こそ、社会学の入り口なのです。社会は光の当て方によって見え方が変わるもの。見慣れているものでも、ほかの人の立場に立って別の角度から見直すと、今まで気づかなかったことに気づくはず。さまざまなモノの見方を身につけると、毎日もちよっとちがって見えてくるかもしれません。

(現代社会学科講師 挽地 康彦)

和光
3分
大学



小田急線鶴川駅から徒歩約15分
<http://www.wako.ac.jp/>

ひとりを光らせる
和光大学
現代人間学部 表現学部 経済経営学部